

2020.2.13(木)
第31例会
(通算 3584回)

2019-2020年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「CONNECT！ロータリーをよく知ってより大きい輪をつくらう！」

第83代会長	天方 智順	例会日	毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
副会長	後藤 公貴	例会場	釧路センチュリーキャッスルホテル
幹事	松井 聖治	事務局	釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
編集責任者	クラブ会報雑誌委員会	☎	0154-24-0860
		☎	0154-24-0411

2019-2020年度
国際ロータリーテーマ



2019-2020年度 RI 会長
マーク・ダニエル・マロニー

第2500地区ガバナー
吉田 潤司 (釧路 RC)

月間テーマ	職業奉仕月間
本日のプログラム	読書の楽しみ方 (担当：プログラム委員会)
次週例会	釧路市長講和 (担当：プログラム委員会)

■ロータリーソング：「四つのテスト」

■ソングリーダー：小野寺 俊君

■会員数 99名

■ビジター RID 2500 第7分区 加納 則好ガバナー補佐、
同 那知 哲 IM 実行委員長

■ゲスト なし

■ニコニコ献金

土橋 賢一君・・・一月で会社設立三十周年を迎えました。感謝の意を込めて。

今年度累計 695,000円

会長の時間

天方 智順会長

皆さん、こんにちは。パーッと見る世界で、視界の中にマスクをしている人が少ないのがすごく安心する今日この頃でございます。



この年になって「これ、ヤバいな」と思うことがいろいろあります。肉体的なこともありますし、運動能力的なこともあります。ひとつ「ヤバいな」と近頃思っているのは、漢字が書けなくなっていることです。今週、文字どおり沖縄県那覇市に行っていたのですが。皆さんはスララと沖縄県那覇市と書けますか。縄の字、作りを亀と書いてしまい笑われました。那覇の覇もおかしい字になってしまいます。階段の踊り場の踊るという字を踏むと書いて笑われました。もうひとつは、挨拶という漢字を良く書いているつもりで挨拶(さつ・あい)と書いているのです。反対になっているのです。

理由は皆さん理解していただけたと思いますが、手書きで物を書く、字を書くという機会が激減しているからだと思います。社会人になってしばらくは手書きで物を書いていたらと思います。皆さんのお仕事でどう

でしょう。ほぼキーボードだけで済まされる方が多いのではないのでしょうか。皆さんも同じように漢字が書けなくなっているのではないかなと思います。私が書けないのをダシにして拝察申し上げます。

今日の講師の話にもつながるかもしれませんが。本を読む習慣も字を忘れないために大切なことだと思っております。こういう私でも毎日、毎朝5分くらい本を読みます。お気に入りの本を個室で読むわけです。その中で、この字書けるかなと思って目を止めて、その字をこうやって手でやる自分がいます。やっぱり書いていないと駄目なのですね、そのためにも本を読むのがいいのではないのでしょうか。

無理矢理こじつけみたいな話ですが、今日は、釧路短大の講師の高木先生にこの後、皆さまのためになるようなお話をさせていただきたく、私が会長になってからこういうテーマだったらこの講師、と決めていましたので、何卒よろしく願いいたします。

以上、どうぞ今日もよろしく願いいたします。

ご挨拶

2500地区 第7分区 加納 則好ガバナー補佐

皆さま、こんにちは。貴重な例会のお時間を拝借いたしました。挨拶とIMのお願いにまいりました。今日は実行委員長の那智哲君も同行しております。後ほど、



ご挨拶をさせていただきます。

改めまして、天方会長をはじめ釧路ロータリークラブの皆さまには、年度半期過ぎたのですが本当にいろいろお世話になりまして、おかげさまで分区の事業も滞りなく今のところ終わっています。そして、何よりも昨年10月に開催されました釧路ロータリークラブ様がホストになられた地区大会、私も久しぶりに出たのですが、本当に素晴らしい大会を体験させていただきました。本当にありがとうございます。

今日は、IMのお願いにまいったのですが、IMの定義は皆さまご承知のとおり分区の方々毎年1度、一堂に会して話し合い、語り合い、そして友情を深める場とされております。今年度、吉田潤司ガバナーは「知らずして語れず！」というテーマの下、みんなで学びや勉強していこう、そして語り合おう、かつ友情を深めていこう、と提唱されております。

今年度、私どものIMのテーマとしまして「築いた歴史を顧みて、広げよう奉仕の心」とさせていただいております。これはチャーターメンバーの方をはじめ、キャリア・歴史の長いメンバーの方々に参加をさせていただいて、自分のクラブあるいは分区のお話と、歴史を振り返っていただくことを基本的なテーマとさせていただいております。

よく「ロータリーの存在そのものが街の文化」と言われております。文化といっても切り口は様々なのですが、今回は釧路出身の直木賞作家・桜木紫乃さんをお迎えして、「この街の風土から生まれる文化」などについてお話をいただこうと思っております。そして、最後は皆さんと楽しく懇親を深め、友情を深め、7分区はひとつ、という思いで開催を鋭意準備している最中でございます。

なにとぞ、釧路ロータリークラブさんの皆さんにおかれましてもなるべく多くの方のご参加をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

なにとぞ、釧路ロータリークラブさんの皆さんにおかれましてもなるべく多くの方のご参加をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

2500 地区第7分区 那知 哲 IM 実行委員長

皆さん、こんにちは。2019-2020年度のIM実行委員長を仰せつかりました釧路西ロータリーの那智哲でございます。どうぞよろしくお願いいたします。



私からIMの説明と当日のご参加のお願いをお話させ

ていただきます。まず今回のIM、釧路ロータリークラブの皆さまの全員登録ということで本当に感謝を申し上げる次第でございます。今回のIMにつきましては、先ほど加納ガバナー補佐からもお話がありましたけれど3月14日土曜日、午後1時30分から開催させていただきます。14時10分からはメインプログラムとして、「築いた歴史を顧みて、未来に広げよう奉仕の心」で、サブテーマは「爽やかな文化の風薫る釧路の街のロータリー」です。第一部の基調講演は釧路出身で作家の桜木紫乃様をお招きして、「爽やかな文化の風薫る釧路の街のロータリー」についてお話させていただきます。

第二部はパネルディスカッションとしまして、各クラブのチャーターメンバー、または昭和入会者から各クラブの歴史と思い出を話していただきます。17時からは閉会セレモニーとして第7分区吉田潤司ガバナーのまとめがあります。懇親会は17時45分から予定しております。ゆっくりお食事を取り、お酒を飲みながらロータリアンの交流を深めたいと考えております。

時節柄、お忙しいとは存じますが多くの皆さまのご参加をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

■ 本日のプログラム ■
読書の楽しみ方

プログラム委員会 池田 いずみ委員長

プログラム委員会の池田です、こんにちは。本日の講師のご紹介をさせていただきます。

釧路短期大学専任講師・高木真美様。天方会長の高校の同期生ということ。釧路市でお生まれになって、同志社大学法学部をご卒業後、釧路市役所にご奉職。2000年4月から2008年3月まで市立釧路図書館にご勤務。2008年4月から2017年3月まで釧路市教育委員会生涯学習部において釧路図書館関係業務をご担当し、釧路市図書館基本計画、新図書館の基本的な考え方、釧路市子ども読書活動推進計画の策定にご尽力されました。2017年4月から釧路短期大学において、図書館司書専門科目を専任講師としてご担当されています。

本日は図書館司書等の豊富なご経験から読書の楽しみ方についてお話いただきたいと思います。では、高木先生、よろしくお願いいたします。

講演 釧路短期大学専任講師 高木 真美様

皆さま、こんにちは。短期大学専任講師・高木真美と申します。釧路短期大学は図書館司書を養成している大学です。その中で私はいろいろな図書館情報学関係の科目を担当しております。



今日は「読書の楽しみについて皆さまにお話を」と、高校の同期の天方さんからのご依頼で今日まいりました。同い年です。天方さん早生まれですよ、私の

方がひとつ上で、私は1963(昭和38)年生まれです。私は釧路市に生まれまして、白糠町という街で小学校・中学校・高校と育ちました。中学校の時から釧路市に通っていたのです。この街に生まれて良かったと思うことは最後にご紹介しますが、桜木紫乃さんのお話を伺う会をこれから皆さん経験されると聞きましたが、読書に親しむ上でこの風土に根ざした物語というのが街なのです。釧路は物語が生まれる街なのです。物語が生まれる街で物語を読むというのは深く読めるのです。そして、それを共有できる人がたくさんいる。これ、なんて恵まれたことだろうと思います。ところで皆さん、読書の楽しみということで、皆さんはどうでしょう、本読んでいますか。たぶん皆さんは「読んでいる」とおっしゃると思います。昔よりも今の方がタブレット、スマホがありますから連絡を取るのも「メールでね」、「LINEでね」という時代になりました。たくさん文字を読んでいることはあります。でも、1冊まるまる本を読むという機会いかがですかね。あんまり多くないのかもしれない。

振り返ってみてください。読書って、私たちに何をもたらしてくれるのでしょうか。1番目のページで「読書がもたらすもの」ということで挙げてみました。これ、皆さんご存じのことばかりです。想像力や思考力、判断力、表現力など。これは想像力育成と書きました。言葉を使う力もちろん付きます。それから知識や情報を得る。それから情報リテラシーの規制というのも。これは私が持っている授業の中で説明している話です。あともうひとつ、自己認識力の育成が大変注目されております。

実は私の専門が『子どもと読書』なのです。子どもの発達に、成長に、どのように読書が関わっていくのが専門です。いろんな所で子どもと読書の話をするのです。皆さん、読書をすると何となく頭が良くなりそうな気がしませんか。体験として「本を読んでいる子って成績良いよな」という感覚ありませんか。これ、いろんな所で調査が始まりました。平成21年度には、文部科学省の委託事業で静岡大学の研究による学力調査もやっています。釧路市はなかなか学力調査の結果が上がりなくて困っています。「読書好き」と答えた児童・生徒の正答率が高い。それから「読書時間が長い生徒」、読書時間が長ければ長いほど成績が良いわけでもない。どんなものをどんなふうに読

むかが、この成績に関与しているのだろうという結果が出ております。

そして、もうひとつ。これは一昨年の本なのですが『本の読み方』で学力が決まる』という本が出版されました。これは脳科学者の川島隆太先生に関わりながら書かれた本なのですが、基本的にデータ、エビデンスに基づいて仙台市の教育委員会の標準学力調査、小中学生4万人の解析データから導き出された結果で、「読書時間が長くなるほど成績が良い。ただし、10分以上2時間未満」。読書時間2時間以上になると成績低下。これは読書時間を確保するために勉強や睡眠の時間を削っていることが間接的に成績低下につながっているのではないかと分析しています。少なくとも読書時間が2時間未満であれば、勉強時間に関わらず読書をたくさんする子どもほど成績が良い。これは静岡大学の調査と同じような結果でした。

ここがポイントなのです。どんなに勉強していても、どんなに勉強時間が長くても、読書習慣のない子どもは平均以下の成績だったそうです。各家庭の社会的、経済的背景の影響を考えた場合でも、小学生の学力に一番影響を与えるのは家庭での読書活動、とこの本は結論づけております。子どもと読書、奥が深いです。何となくというのが、だんだんいろんな調査手法によって、どういうメリットがあるのかが分かってきました。

ところで皆さん、「読書離れ」と言います。天方さんは「毎朝、個室で読書活動している」と聞きました。読書離れ、どうですか皆さん。ご自分自身、どうですか。私なんかは10年くらい前に、いま56歳ですから46くらいの時から極端に本を読むのが苦痛になりました。なぜか、単なる老眼です。その時には眼鏡をあつらえることで乗り切った経験があります。世の中で「読書離れ」と言われるのはいろんな原因があります。読書離れということでデータとしてあるのが、平成26年以降、全国的に図書館の本の貸し出し数が減っています。それまでずっと右肩上がりだったのが減り始めました。なぜかというと、平成26年はスマホが大きく普及したところと合致するのです。ですから紙の本ではなく、いわゆる電子データで本を読むことが出てきたのではないかとこの人もあります。その他に、読書はいろんな力を使っているのを皆さん、気づいていないのかもしれないです。いろんな力を使っています。これはアドラーとドーレンという人が『本を読む本』の中で説明しています。

ひとつ目は「教養書の読書」があります。皆さんはお仕事の関係で読む物がありますよね。それからビジネス書、仕事以外でも「人生とは」とか、哲学書とかを皆さんは読むと思います。自己啓発本なども最近が多いですよ。読むパターンもあります。学校や図書館でいくと、いわゆる「0門」から「8門」まで分類

される本なのです。教養書の読書は、情報を得るための読書と理解を深めるための読書です。何かを知るには、この時に判断力や推理力が必要なのです。知性を働かせなければこの教養書の読書は難しいです。

もうひとつ、大きく分けて「文学書の読書」があります。文学が伝えるのは経験それ自体で、それは読む作業によってのみ読者が得ることのできる経験です。読書というのは極めて個人的な活動です。また、その本がうまく伝えられれば読書は何らかの感動を得ます。皆さん、ここで「文学」と書きましたが、文学は芸術のひとつの分野です。芸術といったとき、大きく文章表現による芸術分野が文学なのですが、『芸術は人の心に感動をもたらすもの』と定義されています。文学は文章表現をもって人の心に感動をもたらすものです。そして、この文学書の読書の経験というのは、何かを経験するには感覚と想像力が必要なのです。

今日、皆さんにお話したいのはこの文学書の読書の方なのです。学校現場では、学校図書館の充実の中で主体となっているのは教養書の読書方法。具体的には、将来にわたって例えば解説文を読む、契約書の文書を読める、など読解力を向上させる部分に力が入られています。

大人の私たちはもう一度この文学書の読書について考えてみましょう。先ほど、本を読むのはいろんな力を使うと話をしました。まず、文字読めることと、本を読めること・物語を読み切る、その力は違います。文字を読んで含まれている情報をまず集めます。思考力を使って情報を私たちは整理しています。整理した情報に基づいて想像力を働かせます。

このところで映像と比較してみましょう。皆さん、『薔薇の名前』というウンベルト・エーコの本を読んだことがありますか。2冊もので、長いものなのです。ウンベルト・エーコは記号学の専門家でもあって、読み解くのがとても大変なのですが、この映画が良かったです。映像というのは情報量がたくさんあります。ですから、そこで情報を集めなくても目からたくさん入ってきます。思考力まで使わなくても、何となくその内容が理解できるような作りになっているのが映像です。本を読むことで必要になってくるのは整理した情報に基づくイメージする力が大切なのです。イメージできないとおもしろくないですよ。

子どもの読書活動を推進する時にまず「絵本の読み聞かせ」をします。なぜ絵本なのか。絵って情報量が多いです。人生経験のない子どもたちに「アンナは赤い外とうを着ていました」と言っただけでイメージできますか。それは絵の中にあることによって、子どもたちはイメージを膨らませて物語を楽しむことができるから絵本の読み聞かせを行うわけです。

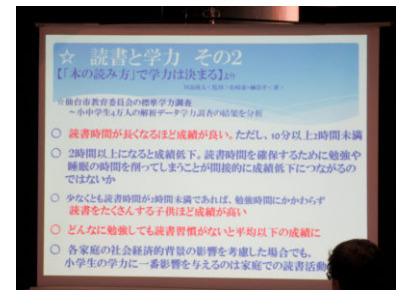
もうひとつ、記憶力を鍛えて本を読んでいるとき、次の展開を楽しんでいるのです。これは無意識にやっ

ているのです。お話が好き、本が好き、フィクションが好き、という方はこういったことをいちいち全部やっているのです。目から文字として入ってきた情報を集めて、思考力を使って情報を整理する。想像力をどんどん使っているのです。これが映像だと楽なのです。入ってくるので気楽に見られます。難解なものを読んだ後、皆さんは疲れた経験がありませんか。『薔薇の名前』なんかは映画を見た後に本を読むことでより深まって、イメージの助けが映像によってあるので最後まで楽しく読むことができます。

問題はいろんな人の名前、特に外国の人の名前が連なってくると分からなくなりますか。何回も何回も見ながら、そこで実は記憶力が鍛えられているのです。ところで皆さん、普段生きていくときって、その想像することや感じるなどよりも「費用対効果は」「結果を見せろ」「この評価はどうするんだ」とか。それから「目に見えるものでなきゃ分からないよ」「数字を出してきて」「量れなきゃ意味のないものだ」と皆さん思っていないですか。これ、仕事の現場では必要なのです。でも、すべてこれだけでできていると楽しくない気がするのですけど。いや、楽しい人もいますよ。すべてとは申し上げません。楽しい方もいらっしゃるかもしれない。でも、私はこれだけでは楽しくありません。

実は私たちは日々、体系的ないろんな知識、そして、情報を手にして自分で考えて、他の人の言葉も聞きながら総合的に判断して行動しています。合理的な行動です。こういうのを積み重ねて日々は成り立っているのですが、このところで自分で考えるためには、想像する力、感じる力が必要なのです。これができなければ、例えば交渉する相手がいたとして、その人が何を考えているのか、どのようなことを目指しているのか、それをイメージできなければ良い交渉ができませんか。できませんね。皆さんはよくご存じだと思う。例えば、私は図書館の司書として働きましたが、窓口に来た人、図書館を利用する人がどう考えているのかをイメージすることによって、より適切なサービスを提供することができました。あと、その人がどのように感じているのかも想像すること。自分がどんなふうに感じて生きたいのか。これも自分でイメージして決めていくことはとても大切なことです。

さっき言ったこの「本を読む」ということ。情報を集めて、思考力を使って想像力を働かせて、記憶力を鍛えて次の展開を楽しむ。これはもうひとつのメタ認知能力を高めてくれます。物語、フィクションですよ



ね。これを自分の頭の中で進行していることを一段上から観察する。それから制御するモニター力。これは自己制御力の発達が生まれてきます。実はこれを思春期の前に育てたいのです。じゃないと衝動的で計画性がなかったり、持続力がなかったり、抽象概念がうまく使えないということになってしまいます。

人間が自分自身を認識する場合において、自分の思考や行動を、そのものを対象として客観的に把握して認識すること。これがメタ認知能力です。この能力がないといろんなところで軋轢（あつれき）が生れてきます。それは家庭もそうだし、社会生活でもそうです。実は『読む力が未来を開く』という本で協明子さんが書いています。これ、自己認識力をつけたりする、自己制御力がつく、自分の意思で行動を始める。10歳前後までこの力をつけたい、そこが発達するところだから。どんな物語を読んだら良いの。感情移入ができて客観的な読書の目でも読める物語が役に立ちます。フィクション、もちろんノンフィクションの物語もあります。

ここで皆さんに提案です。サード・プレイスという言葉聞いたことありませんか。「第3の場所」、これはアメリカの都市社会学者のレイ・オルデンバーグさんが1989年に発表しました。その言葉「ザ・グレート・グッド・プレイス」の中で提唱した言葉なのですが、第1の場所は家庭、第2の場所は職場、それ以外にもうひとつの場所を持つ。そのことによって人は豊かに暮らせますよ。

皆さんのサード・プレイスは、もしかしたらこの会場かもしれません。ロータリーの例会もそのサード・プレイスのひとつだと思います。そこに読書を加えていただく。

巷でどんなことが起きているか。実は、図書館をサード・プレイスと考える考え方が近年出てきています。みんな楽しんで読書の世界。本を通じて人を知る、人を通じて本を知るといって、実は読書会が盛んです。釧路でもいくつか読書会あるのですよ。読書会に2つのパターンあって、同じ本をみんなで読んで語り合う。それと、みんな一人一人が本を持ち寄って紹介する読書会もあります。私はどちらにも入っていますが、どちらも楽しいです。

『本で婚活、GO!』というのがあります。これは山陽小野田市立中央図書館でやっています。皆さん、自己紹介します。婚活の場所でも自己紹介するそうです。でも、その人から自己紹介を100回聞くよりも、その人がどんな本読んでいて、どんな風に感じていて、どんな風に自分の人生をイメージするのか、と聞いた方がより深くその人知ることができませんか。ということで今、読書会の中では、この「本で婚活読書会」というのも流行っています。

それから、もうひとつの流れが『ビブリオバトル』、

皆さん聞いたことないですか。これは知的書評合戦とされています。ビブリオというのはギリシャ語やラテン語の関係でいくと本という意味なのです。本を紹介して、読みたくなった本に票を入れる。一番多く票を集めたものがチャンプ本になるのです。実は人が本を紹介するということは、本を知るだけではなく、その人を知ることになるのです。本を通じて人を知る。人を通じて本を知る。

もうひとつ出てきたのも「婚活ビブリオバトル」。ビブリオバトルを使って婚活をするというもの。30年前には考えられなかったような読書の世界がどんどん生まれてきています。そして、今まで出版業界はずっと低迷していたのですが、電子書籍の参入もあって増えたこともあって、少し持ち直しているのです。今年、22年ぶりに出版業界の大手は決算状況が良くなってきています。

人にはこの物語の世界が必要なんじゃないでしょうか。冒頭にお話しました釧路は物語が生まれる街です。特別な読書の楽しみ方ができますね。原田康子さん、これは若いときの写真、『挽歌』の時に使われていた写真です。幣舞公園のあたりから撮ったものとされています。『サビタの記憶』とか『海霧』は感動的でした。なぜかという、この街にいなければ分からない海から上がってくる香り、吹く風の感覚、冬の日差し、いろんなものがこの物語から立ち上がってくるのです。それは、ここに住んでいる者の特権だと思います。『挽歌』は昭和31年(1956年)12月に出版されたものですが色あせていません。もしお読みでなかったら読んでみてください。違う形で感動できます。そして『海霧』ですね。これもお勧めです。

そして、桜木紫乃さん。『ホテルローヤル』で直木賞を受賞されました。そのあと、『無垢の領域』、最近ではカルーセル麻紀さんをモデルにした『緋の河』も人気です。これ、私、泣きました。だって痛いほどこの地に生きて、自分の生き方を探して、確立して暮らしていくというのはどういうことなのか。たぶん56歳の今だから感じられるのかもしれませんが。読書の楽しみ、いろんなことがあります。でも、釧路人にはアドバンテージがあります。この街は物語が生まれる街だから。

いまお話してきたこと、想像力がついて、イメージがする力がついて、感性が育まれることは、皆さんひとりひとりのストーリー・人生を豊かにします。ひとりひとりに人生があります。暮らしていきます。その中でひとりひとりのストーリーがあるのです。皆さんは物語を抱えて、物語の中を生きているのです。ついでに言うと、豊かな人が暮らす街は幸せな街になります。ひとりひとりが幸せじゃないとその街は幸せじゃないですよ。

いま読書にこんな楽しみがありますよという話をし

てきました。もちろん釧路にもある。釧路に住む皆さん、桜木紫乃さんや原田康子さんの物語を楽しむ。これの他にも薦めの本『熱源』は先日直木賞を受賞して、知っている方たくさんいらっしゃると思う。お読みになった方いらっしゃいますか。これは育む力をものすごく読書で鍛えられます。まず、名前がたくさん出てくるわけです。それもアイヌの人の名前、主役はヤヨマネクフです。日本名を山辺安之助（やまべやすのすけ）ということで、登場人物たちの名前がたくさん出てきます。その中に出てくる人たち果敢に生きます。時代の流れに翻弄され、自然に翻弄されても果敢に生きていきます。疫病にも打ち勝って生きていきます。生きるんです、とにかく生きるんです。このエネルギーの中で、自分から湧き出すエネルギー、大地から沸くエネルギーの中で生きていく人たちのお話です。

この中で、アイヌの酋長と名乗るチコロビーという人がいます。その人はアイヌたちをまとめていくのです。私は今日、この例会を見まして、改めてチコロビーはカッコいいな、すごいなと思った。チコロビーはこの『4つのテスト』をすべてクリアした言動なのです。「真実かどうか、みんなに公平か、好意と友情を深めるか、そしてみんなのためになるかどうか」。それを体現するチコロビーという登場人物に私は魅せられました。そして、この物語を堪能することで、私の一日はとても豊かになりました。そして、これから生きていく上でもこの1冊は私に力をくれるものだと思います。

お約束の時間は30分でしたね。もう少しあります。桜木紫乃さんのお話を先ほどしました。『ホテルローヤル』で桜木紫乃さんが直木賞を受賞した年に、釧路市の観光振興室で作った冊子やリーフレットがあります。これ、桜木紫乃作品の舞台マップみたいなもので、これは図書館にもあります。もし機会があれば、これを道標にして読書を楽しむのもひとつの手かもしれません。それから、まったく違う世界も楽しむということもひとつあります。

私は最近では、『十二国記』（じゅうにこくき）というハイファンタジーの物語、22年ぶりに新しい物語が生まれたので、堪能しました。まったく違う世界のまったく違うお話。自分の世界とリンクしている所はほんの少し。でも、行って帰ってくる、物語の世界に心を遊ばせて、そこで想像する力と感性を高めて現実の世界に戻ってくる。これは力になるのです。

どうぞ皆さんが読書によってより良いストーリーを手にすることができますように、今日はお招きいただきましてありがとうございます。

謝辞 天方 智順会長

高木先生におかれましては、私が想像した以上の咀嚼(そしゃく)をしていただき、ありがとうございます。去年の釧路市の市P連の大会で高木さんがした小中学校の保護者向けのお話を何となく期待していたのですが、見事にわれわれ頭が固くなっているおじさん向けのお話をしていただいて、本当にありがとうございます。

なんて、言うのは恥ずかしいから、本当、真美ちゃんありがとう。

どうもありがとうございます。

[Return to Top](#)

[Return to Web Site](#)